

2026 年度・2027 年度の事業委員会の正副委員長校について

2026 年度に最終年度を迎える、ひょうご産官学連携協議会の中長期計画Ⅱ期を確実に完遂するとともに、2027 年度からの 5 ヶ年の中長期計画Ⅲ期の計画、実行、推進に向け、下記の体制にて事業委員会の運営を行う。

No.	事業委員会	委員長校	副委員長校
1	国際交流委員会	兵庫県立大学	神戸市外国語大学
2	学生交流委員会	神戸常盤大学	関西学院大学
3	教育連携委員会	甲南大学	大手前大学
4	高大連携委員会	関西国際大学	神戸大学
			兵庫教育大学
5	キャリア委員会	神戸学院大学	関西福祉大学
			甲南女子大学
			神戸国際大学
6	FD・SD 委員会	神戸親和大学	芸術文化観光専門職大学

※赤字は 2026 年度からの新規担当大学

事業委員会の運営に関する申し合わせ（抜粋）

3-2. 委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法

- (1) 任期は 2 年とし、再任を妨げない。但し、委員長校については、再任が生じないよう配慮する。
- (2) 国際交流委員会、学生交流委員会、教育連携委員会及び高大連携委員会の委員長校の選考は、選択制とし、キャリア委員会及び FD・SD 委員会の委員長校の選考は輪番制とする。
- (3) 6 事業委員会の副委員長校の選考は、選択制とする。
- (4) 任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取し、企画運営委員会で協議ののち、理事会で決定する。

【選択制】

- ① 選択制は、適用される委員会の正副委員長校の履歴を考慮し、正副委員長校を選択することとする。
- ② 事業委員会の委員長校の任期期間に理事が交代した場合であっても任期満了まで、引き続き担当する。

【輪番制】

・ 輪番制は、事前に決定した理事校内の大学順にて、委員長校を担当する。ただし、理事会が認める場合、順序を変更できるものとする。

【留意事項】

- ① 選択制 4 事業委員会の正副委員長及び輪番制 2 事業委員会の委員長については、原則として、理事校が担当するものとする。ただし、理事会が認める場合、理事校以外の正会員が担当することができるものとする。
- ② 選択制と輪番制では、輪番制を優先するものとする。
- ③ 1 大学が重複して正副委員長校を担当することがないように調整する。

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会の運営に関する申し合わせ

企画運営委員会

1. 目的

この申し合わせは、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸（以下「コンソ」という。）定款第 38 条に基づき設置した事業委員会の運営について、必要な事項を定めるものとする。

2. 委員等

事業委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 正会員の教職員で、原則 2 名（教員 1 名、職員 1 名）。
- (2) 毎年度、第 1 回委員会開催までに委員をコンソ事務局に登録する。

3. 事業委員会の組織及び所管事項等

- (1) 事業委員会は、委員長校と副委員長校を置く。ただし、副委員長校は複数校置くことができる。
- (2) 委員長校は、副委員長校と連携し、事業計画の策定、事業委員会の招集、審議等、行う。
- (3) 副委員長校は、委員長校を補佐し、委員長校が不在の場合は、職務を代行する。

3-2. 委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法

- (1) 任期は 2 年とし、再任を妨げない。但し、委員長校については、再任が生じないように配慮する。
- (2) 国際交流委員会、学生交流委員会、教育連携委員会及び高大連携委員会の委員長校の選考は、選択制とし、キャリア委員会及び FD・SD 委員会の委員長校の選考は輪番制とする。
- (3) 6 事業委員会の副委員長校の選考は、選択制とする。
- (4) 任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取し、企画運営委員会で協議ののち、理事会で決定する。

【選択制】

- ①選択制は、適用される委員会の正副委員長校の履歴を考慮し、正副委員長校を選択することとする。
- ②事業委員会の委員長校の任期期間に理事が交代した場合であっても任期満了まで、引き続き担当する。

【輪番制】

・輪番制は、事前に決定した理事校内の大学順にて、委員長校を担当する。ただし、理事会が認める場合、順序を変更できるものとする。

【留意事項】

- ①選択制 4 事業委員会の正副委員長及び輪番制 2 事業委員会の委員長については、原則と

して、理事校が担当するものとする。ただし、理事会が認める場合、理事校以外の正会員が担当することができるものとする。

②選択制と輪番制では、輪番制を優先するものとする。

③1大学が重複して正副委員長校を担当することがないように調整する。

4. 事業委員会の任務

(1) 事業委員会は、理事会において決定された事業方針に則り、事業委員会内で事業の具体的な計画・実施・報告（自己評価）を行い、情報を共有する。

5. 事業委員会の招集・議事

(1) 事業委員会は、委員長が必要と認めたとき、又はそれぞれの事業委員会を構成する正会員の半数以上からの請求があったときに委員長が招集する。

(2) 事業委員会の委員長は、事業委員会の承認を経て、「正会員当たり原則2名の委員」に拘らず、計3名以上の者若しくは委員以外の者を出席させることができる。

6. 成立要件（定足数）

(1) 事業委員会は、それぞれの事業委員会を構成する正会員の過半数の出席をもって成立とする。

(2) 委員が欠席し、代理者が出席した場合は、その委員は出席したものとみなす。

(3) 「委任状」の制度は用いない。

(4) 事業委員会は、対面、オンライン、書面又は電磁的記録による会議方式によって開催する。

7. 議決権及び議決数

(1) 正会員あたり各1個の議決権を有し、議事は出席した正会員の過半数をもって決する。なお可否同数のときは委員長の決するところとする。

8. プログラム担当校

(1) 事業委員会において、必要に応じ、プログラムを主に担当するプログラム担当校を置くことができる。

(2) プログラム担当校は、委員長校・副委員長校と相談のうえ、プログラムの計画、実施、報告（自己評価）を行う。

(3) 委員長校・副委員長校がプログラム担当校となることを妨げない。

9. 事業委員会事務局

(1) 事業委員会に関する事務は、コンソ事務局と事業委員会の事務局（委員長校・副委員長校）が連携して行う。

10. 改廃

この申し合わせの改廃は、企画運営委員会の議を経て、理事会で決定する。

附則

この申し合わせは、2019年4月1日から施行する。

附則

- (1) この申し合わせは、2022年4月1日から改正施行する。
- (2) 「3. 委員長校、副委員長校」の任期について、2022年度は、新たに任命された委員長校、副委員長校を含め1年とする。

附則

この申し合わせは、2023年4月1日から改正施行する。

附則

- (1) この申し合わせは、2026年4月1日から改正施行する。
- (2) 2023年4月1日から施行した「3-2. 委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法」に規定した次の経過措置は、期間満了により削除した。
 - ① 委員長校及び副委員長校の選考方法については、2023年度より選択制及び輪番制を導入する。
 - ② 委員長校及び副委員長校の任期については、2023年度からの担当期間を原則として3年間（2023年度～2025年度）とする。
 - ③ 2026年度～2027年度の委員長校及び副委員長校については、過去の就任実績を鑑みて2025年度後期に検討するものとする。

以 上

2026 年 2 月 吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 森 康俊

2026 年度事業計画・予算（案）及び 2025 年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしくお願いたします。

なお、2026 年度事業計画の作成にあたっては、2025 年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2026 年度事業計画・予算（案）及び 2025 年度事業報告・決算（案）の作成・提出

(1) 2026 年度事業計画・予算【鑑】（案）

提出期限：2026 年 2 月 13 日（金）正午

(2) 2026 年度事業計画・予算【詳細】（案）

提出期限：2026 年 5 月 7 日（木）正午

※第 7 回理事会(1/30)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。

委員会事業予算（総額）：600 万

(3) 2025 年度事業報告・決算（案）

提出期限：2026 年 3 月 26 日（木）正午

2. 今後のスケジュール

(1) 「2026 年度事業計画・予算（案）」

2026 年 3 月 26 日 第 8 回理事会にて審議・決定

2026 年 6 月（予定） 定時総会にて報告

(2) 「2025 年度事業報告・決算（案）」

2026 年 4 月（予定） 2026 年度第 1 回理事会にて審議、定時総会に上程

2026 年 6 月（予定） 定時総会にて審議・決定

(添付書類)

- ・添付 1) 2025 年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付 2) 2026 年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付 3) 2025 年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

【2026年度 キャリア委員会 事業計画・自己評価・事業報告】

資料3-2

○目的 兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟する大学間連携組織の特徴を生かして、グローバル、ローカルに活躍する人材育成を目指した事業を、県内企業、行政、加盟校キャリアセンターと共に展開する。

○委員校 委員長校：関西学院大学 副委員長校：関西福祉大学、甲南女子大学、神戸国際大学
 (全：23校) 委員校：芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸市外国語大学、
 ※委員校は2025年度 神戸松蔭大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園大学、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学
 時点

○中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標/予算等

課題及び期待される効果	取組	達成目標	活動指標	予算(千円)
1. 大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクト実施				
課題①地域の活性化のための県内企業への就職率の向上 [期待される効果] 1. 地域創生の推進にあたり県外への人口流出を抑制するために、県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深め共に連携する機会を提供することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、大学生の県内企業への理解不足を解消し、地域の活性化を実現することが期待される。 2. 地域の活性化のためのUJIターン就職の促進と地域産業ニーズに対応した人材育成が期待できる。	1-1「兵庫県」大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	①本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上	各年参加者数 450名以上 [内訳] 学生数400名以上 教職員数50名以上	3,941 (受託事業収入)
	1-2 県内企業への就職率向上促進プログラム	②参加者数：2500名以上/5年 [内訳]学生数2250名以上/5年、教職員数250名以上/5年		0
	2 県内企業・団体等の魅力を情報発信	情報公開企業・団体数：120社以上	企業情報の追加掲載 2種類以上	0
2. 留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施				
課題④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進 [期待される効果] 3. 各加盟校単独では実施が困難だと思われる「留学生に特化したインターンシップ」や「合同企業説明会」実施に向けて、持続可能な仕組みづくりが期待される。 4. 外国人留学生を企業が受け入れるための体制支援を強化し、外国人留学生採用のためのワンストップ相談窓口をコンソが担うことで、大学、行政、企業が連携した新たなネットワークを構築が期待できる。	1-1(1)ひょうご留学生インターンシップ	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上	各年参加留学生数 500名以上	1,600
	1-1(2)「尼崎市」留学生向けインターンシップ(インターンシップ等推進事業)	②参加留学生数：2500名以上/5年		1,415 (受託事業収入) (予定)
	1-2「兵庫県」外国人留学生採用ワンストップ支援事業	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：250名以上/5年	各年参加留学生数 50名以上	6,291 (受託事業収入)

【2026年度 キャリア委員会 事業予算】

(単位：円)

予算		各取組 予算						委員会 予算
		課題①			課題④			
		取組1-1	取組1-2	取組2	取組1-1(1)	取組1-1(2)	取組1-2	
		「兵庫県」 大学連携組織を活用した 県内大学生の地元就職促進 プロジェクト	県内企業への就職率向上 促進事業	県内企業・団体等の魅力を 情報発信	留学生向け就職支援・ キャリア教育プログラム	「尼崎市」 外国人留学生向け インターンシップ(予定)	「兵庫県」 外国人留学生採用 ワンストップ支援事業	
予算額		予算額	予算額	予算額	予算額	予算額		
収入	会費収入	1,700,000			1,600,000			100,000
	助成事業収入	0						
	受託事業収入	11,647,000	3,941,000			1,415,000	6,291,000	
	プログラム収入	0						
	雑収入	0						
	戻入金	0						
	計	13,347,000	3,941,000	0	0	1,600,000	1,415,000	6,291,000
支出	会議費	0						
	旅費交通費	310,000	60,000			50,000	200,000	
	通信運搬費	430,000	30,000			200,000	200,000	
	消耗品費	281,000	100,000			61,000	120,000	
	新聞図書費	0						
	印刷製本費	370,000	100,000				200,000	70,000
	光熱水料費	0						
	賃借料	938,000	338,000		300,000		300,000	
	保険料	0						
	謝金	490,000	140,000		250,000		100,000	
	租税公課	50,000	10,000				10,000	30,000
	支払手数料	20,000	10,000				10,000	
	諸会費	45,000	45,000					
	委託費	1,650,000			650,000		1,000,000	
	人件費	8,763,000	3,108,000		400,000	1,104,000	4,151,000	
	接待交際費	0						
	支払支援金	0						
雑費	0							
計	13,347,000	3,941,000	0	0	1,600,000	1,415,000	6,291,000	100,000

収入－支出	0
-------	---

【公募前】 差し替え予定**令和8年度
インターンシップ等推進事業について
尼崎市経済環境局経済部しごと支援課****① 外国人留学生向けインターンシップについて****1.事業目的**

少子高齢化等で労働力不足が深刻化する中、高度人材でもある外国人留学生の日本での就職は進んでいない現状がある。このことから、日本で就職を希望する外国人留学生に特化したインターンシップの機会を提供するとともに、企業に対し、留学生の能力や職業観、社内での多文化共生社会への理解を深める機会を提供することで、外国人採用の機運を醸成する。

2.委託業務内容

- (1)外国人留学生向けインターンシップ(5日以上)のコーディネート
- (2)参加学生募集の広報活動
- (3)参加学生の選考・管理
- (4)参加企業の掘り起こし
- (5)参加企業のサポート
- (6)アンケート調査の実施(参加事業者、参加学生)
- (7)報告書の作成ならびに「アマポータル」を用いた参加企業の魅力発信

3.目標

参加学生15人以上、参加事業者5社以上

4.金額

¥1,415,000(R7年度実績)見込み

② 契約に向けてのスケジュールについて**1.実施運営事業者選定方法**

外国人留学生向けインターンシップ事業のプロポーザル方式(提案書及びプレゼンテーション審査)による一者特命随意契約

2.スケジュール

- (1) 1月:公募要項、仕様書等の作成、コンペ等の日程調整
- (2) 2月上旬～:ホームページにて実施運営事業者公募
- (3) 3月上旬～:プロポーザルコンペ
- (4) 3月中旬～:業務委託契約に係る見積依頼
- (5) 3月中:R7年4月1日付け業務委託契約の締結

2025年度事業委員会への改善提案について

(参考) 資料3-4

※達成目標は中長期計画立案時に、活動指標は各年事業計画立案時にそれぞれ策定

①国際交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	4	4	加盟校の学生からの複数の持ち込み企画を支援し、学生の自発性やアイデアを表現に注力したことや、International Festival HIH EXPOにおいて、留学生、学生と地域を繋げる場やゼミ活動を実施する場を創出したことは高く評価できる。また就職支援では当コンソ会員企業にも協力を仰ぎ、双方に刺激になる企画を実施したことも意義深い。今後もコンソの他プログラムや地元中高生、企業と連携しながら、国際交流を軸とした、学生の学びをアウトプットする機会の提供し、コンソの特徴を活かした地域の多文化共生を推進することを期待する。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数2500名以上/5年	①理解度 100% ②参加者数 6,173名/4年(2025.10.31現在)	参加者数 500名以上/年	参加者数 611名(2025.10.31現在)
事業報告②	〈加盟校の国際交流プログラムとの連携促進〉 ・学生海外派遣プログラム ・事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	4	3	新たな取組として神戸学院大学と一緒に取り組む「BOSA1コミュニケーションカード」や甲南女子大学GCPプログラムでは、当初の計画に加え、11月実施のInternational Festival HIH EXPOに出展するなど、新たな試みにより充実をはかったことは評価できる。また、ミャンマー震災関連イベントでは当コンソの取りまとめで複数の加盟校が協力し、学生や一般に向けてそれぞれの持ち味を活かした企画を発信できたことは評価できる。今後も加盟校の国際交流プログラムに多様な人々が参加できるよう、創意工夫することを期待する。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②プログラム数 10件以上/5年	①理解度 100% ②プログラム数 16件/4年(2025.10.31現在)	プログラム数 2件/年	プログラム数 5件(2025.10.31現在)

②学生交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	〈テーマ型の学生交流プロジェクトの実施〉 ・「WILL BEプロジェクト」キッズフェスティバル	4	4	INAC神戸レオネッサとの連携により、従来の開催方式を刷新したキッズフェスティバルにおいて、学生が主体的に企画・運営に取り組み、多様なブース展開を実現できた点は高く評価できる。ゼロベースから新たなキッズフェスティバルを築き上げる過程で、企業課題解決プログラムをはじめ、コンソーシアムの多様な取り組みとの連携・協働につながるプログラムを見い出したことは大変意義深い。来年度からは、企業課題解決プログラム等、委員会の枠を超えて加盟校に広く柔軟なブース出展を呼びかけることで、多様な学生の参加を促し、大学間交流のさらなる深化を図ることを期待する。	各年参加者数 50名以上	参加者数 500名	参加加盟校数 10校/年	参加加盟校数 14校
事業報告②	〈学生発信ブランディング〉 ・加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報	3	3	全国コンソーシアム研究交流フォーラムにおけるパネル・ポスター展示では、加盟校の取組を広く全国で紹介できたことに加え、来場者との直接的な情報交換を実現し、単なる情報発信に留まらない双方方向での広報展開を行った点で高く評価できる。一方で、情報発信の主体となる加盟校に偏りが見られることは、今後の課題である。今後は、より多くの加盟校の参加を促すために、情報提供のメリットを明確にし、多様な大学が積極的に情報発信できるよう、コンソHPやNOTE等仕組みの検討を期待する。	情報公開数 200取組以上/5年	情報公開数 165取組/4年(2025.10.31現在)	各加盟校からの情報提供：年1回以上 情報公開数：40取組以上/年	情報公開数：32取組(2025.10.31現在)
事業報告③	〈学生発信ブランディング〉 ・若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」SNS等での情報発信	2	3	学生の関心や実体験を起点にWebメディア記事を制作し、阪神・淡路大震災の被災者や自治体職員等への取材を通じて社会との交流や教育機会を創出したことや、製作した防災動画が大阪・関西万博関連イベントや全国大学コンソーシアムで活用され、広報効果を高めることは評価できる。今年度で終了する当プログラムで認識できた、学生の防災意識・備えや災害時の行動理解、ボランティア活動への意欲を、今後はコンソの国際交流委員会を取り組み中の「BOSA1コミュニケーションカード」作成の活動に活かす等、継続的な活動が望まれる。	参加加盟校数 10校以上/年	参加加盟校数 7校	個人参加 15名以上	個人参加 23名

③教育連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・単位互換事業の実施	4	4	単位互換制度を通じた学びの選択肢は、加盟校学生にとって引き続き有益な取組であるが、制度自体の認知度向上に向け、広報手法や情報提供のタイミング等について、引き続き検討のうえ実施いただきたい。また、オンライン科目やオンデマンド形式への学生ニーズが高まっていることを踏まえ、現状に即した履修環境の整備についても、引き続き委員会にて検討を進めていただきたい。	各年開放科目数 10科目以上	165科目	参加学生数 30名、 (送り出し校数5校以上)/年	62名(13校) ※対面：46名、オンデマンド：16名
事業報告②	・多様な学修機会の提供	4	4	加盟校間の公開講座の開放により、教育資源の共有と相互連携が進み、学修機会の提供体制は着実に構築されている。今後は、教育・研究面での交流促進や知の循環をさらに強化し、教育の質向上と学修成果の最大化につながる枠組みについて検討を進め、実施いただきたい。また、「大学×ラーニング協議会基盤システム」等のICTを活用した学習支援についても、加盟校間での活用事例共有や周知を継続し、教育支援基盤の整備と質向上に期待したい。また、実態に即した活動指標についても、あわせてご検討いただきたい。	各年プログラム数 5件以上	7件 (2025.10.31現在)	参加者数 50名以上/年	参加者数 2,392名(2025.10.31現在)

④キャリア委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・「兵庫県」 大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	3	3	大学や企業が共通課題としている『グリーゾーン学生』の支援方法を学ぶ機会を提供し、産官連携で取組む機運を醸成したことや、「就活向けグループディスカッション&グループ面接体験セミナー」における地方公務員コース新設するなど、多様化する学生、企業のニーズに柔軟に対応したことは高く評価する。一方で、学生の確保が困難という課題が顕在化し、キャリアイベントにおける企画内容の検討、SNS等を活用した広報戦略の見直しにより、多様な学生が参加しやすい取り組みへと改善の必要がある。今後は早期化、多様化する学生のキャリア志向に対して、産官学がより内容の濃い情報交換しながら、学生のキャリア支援に取り組まれることを期待する。				参加者数218名 (学生125名、教職員93名) (2025.11.30現在)
事業報告②	・県内企業への就職率向上促進プログラム	3	3	今年度新たに共催した、12月開催の「ひょうごJOBフェア2025」では、4年生や既卒生が参加者の大半を占めており、これらの層の就職支援等、多様な就職を支援する必要性が新たに認識できたことは評価できる。引き続き、就職活動の早期化・多様化に伴い学生が分散している現状に対し、連携先増加やチャネル拡大に意識して取り組み、多くの学生と企業が出会う場を創出し、県内定着へと繋げるための取り組みを創意工夫しながら実施することを期待する。	①本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 ②参加者数：2500名以上/5年	①理解度 96% ②学生1,434名・教職員499名/4年(取組1-1,2,3合算) (2025.11.30現在)	各年参加者数 450名以上 [内訳] 学生数 400名以上 教職員数 50名以上	参加者数95名(2025.11.30現在)
事業報告③	・「尼崎市」 大学生等向けオープンカンパニー（インターンシップ等推進事業）	3	2	本取り組みは、地元志向の強い学生や、選考を伴い且つ拘束期間の長いインターンシップ等への参加が困難な課外活動や研究活動を行っている学生に対し、気軽に企業と深い交流ができ、合理的な就職活動の機会を提供した点は評価できる。また、企業からも、学生の志向を理解し、自社の魅力をより丁寧に伝える機会としての評価は高かった。一方で、地域や業種が限定的であることから、コンソの枠組みでは参加学生の確保が困難という課題が明らかになった。今後は、このように多様かつ限定的な学生や自治体のニーズに注視しつつ、別の形で応えていくことを検討・推進することを期待する。				参加者数22名 (学生22名、教職員0名)
事業報告④	・県内企業・団体等の魅力を情報発信	4	4	ワーク・ライフ・バランスや待遇の向上が重視される現在の状況において、子育てサポート企業やユースエール認定企業などの客観的な指標や情報を一元化して明確に示すことは、現在の学生が重視する企業の待遇や環境を比較検討する手助けとなり、キャリア支援担当者による指導の一助としても極めて有用であると評価する。これにより、学生の企業研究の質を向上させ、適切なマッチングを促進する意義深い取り組みである。今後は、掲載されている優良企業や制度の情報を、より多くの学生層(例：低学年層)に対して、どのように効果的に周知徹底し、利用を促していくかという戦略的な展開を期待する。	情報公開企業・団体数：120社以上	153社	企業情報の追加掲載 2種類以上	追加情報掲載2種類 (12月中に掲載予定)
事業報告⑤	・ひょうご留学生インターンシップ	4	4	留学生83名が参加の「ひょうご留学生インターンシップ」や、日本人学生と外国人留学生が参加した「国際交流機関リレーインターンシップ」により、多国籍環境下での就業体験を提供した点は評価できる。一方で、県内での留学生の就職者数が増加する中、早期離職が課題となっている。留学生が自身のアイデンティティを活かした就職・定着を目指すこと、また、外国人の職場定着に貢献できる日本人学生を育成することも視野に入れた事業展開を期待したい。				575名
事業報告⑥	・「尼崎市」 留学生向けインターンシップ（インターンシップ等推進事業）	4	4	ひょうご留学生インターンシップの枠組みを活用し、行政のみでは実施が困難な尼崎市内企業に留学生をアレンジ、同市内企業における留学生採用への機運を高めた点は評価できる。同時に、尼崎市にコンソの17年間継続のノウハウとその継続性や実績を印象づけ、コンソとの連携の価値を示すことができた点も意義深い。今後は、他の自治体との連携においても活用できるよう、創意工夫を重ねながら実施していくことを期待する。	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：2500名以上/5年	①理解度 100% ②355名/4年	各年参加留学生数 500名以上	575名(事業報告⑤に含む)
事業報告⑦	・「兵庫県」 外国人留学生採用ワンストップ支援事業	4	4	同窓口開設から3年目を迎え、キャリアセンターと連携しながら、留学生インターンシップ参加学生への継続的な支援をはじめ、多様な留学生の就職支援を実施し、県内就職を希望する留学生を取りこぼすことなく対応してきた点は評価できる。また、コンソとして、兵庫県をはじめ、留学生就職に関わる関係機関（商工会議所、大阪出入国在留管理局神戸支局、労働局、JICA関西、JETRO神戸、兵庫国際交流協会、県行政書士会、日本語学校等）との連携や、国際交流委員会事業との協働が進化したことは意義深い。今後は、これら関係機関との連携をさらに強化し、本事業にとどまらず、他の事業領域にも効果が波及するような取り組みの推進を期待する。	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：250名以上/5年	①理解度 97% ②355名/4年 (2025.11.30現在)	各年参加留学生数 50名以上	92名(2025.11.30現在)

⑤ 高大連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	(大学と高等学校の意見交換会の実施) ・「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」	3	4	兵庫県下の大学と高等学校との連携・接続に関する課題を共有し、これらについて継続的に意見交換が行われている点は評価できる。引き続き、県内における高大連携を一層深め、人材育成の取組促進や人的ネットワークの構築につながる活動を積極的に推進してほしい。	各年参加校数 20校以上	参加校数 22校	意見交換会等の実施 年1回以上	意見交換会等の実施 2回
事業報告②	・加盟校の魅力情報を発信	3	4	コンソHPにおける情報発信や兵庫県下の高等学校への情報共有など、高大連携に関する情報を提供している点については評価できる。今後も継続して、高等学校の教職員・高校生・保護者に向けて加盟校の情報を効果的に発信していただきたい。	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上	情報提供先 184か所 (兵庫県学校長協会及び兵庫県総務部教育課私学教育班を通じて) ※年度内に200か所達成予定	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載 アンケート等の実施/年1回以上	ホームページへの情報掲載 1回

⑥ FD・SD委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	4	4	加盟校が実施するFD・SDセミナーについて、情報共有の仕組みを構築し、加盟校へ適切に周知することで、多くの教職員の資質向上に寄与している点は高く評価できる。現時点で、活動指標・達成目標を達成していることから、その効果が確認できる。引き続き、加盟校のニーズを丁寧に把握し、それらを反映したFD・SDの取組を継続的に進めることで、より効果的な事業展開となることを期待したい。また、実態に即した活動指標についても、検討いただきたい。	各年セミナー5件以上	公開セミナー 7件(8校) (2025.10.31現在)	参加者数100人以上/年	参加者数 728名/年 (2025.10.31現在)
事業報告②	・FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	4	4	大学運営上の課題について、加盟校間でFD・SDの共通化を図り、教職員研修業務の効率化を目的としたセミナーを企画・実施している点は評価できる。引き続き、計画に沿って着実にセミナーを開催し、安定的な研修機会を提供するとともに、加盟校教職員間の交流促進にもつながる取組を期待したい。	各年参加者数 50名以上	参加者数 41名 (2025.10.31現在)	開催数3回以上/年	開催数 1回 (2025.10.31現在)

⑦ 企画運営委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・リカレント教育の普及促進に向けた取組 ・加盟校のリカレント教育に関する情報発信	4	4	リカレントフォーラムにおいて、企業・大学・行政の多様な立場から意見交換を行い、課題解消の可能性を見いだせた点は高く評価できる。また、兵庫県からも県内大学におけるリカレント教育推進への寄与が期待されていることを踏まえ、今後もさまざまなステークホルダーと加盟校が連携し、リカレント教育の一層の普及に努めていただきたい。	・各年参加者数 50名以上 ・各年10校以上	・参加者数 52名 ・掲載数 26校	大学・企業関係者による講演・意見交換会 (年1回以上)	・開催数 1回 (2025.8.30開催)
事業報告②	・「兵庫県」 大学生等インターンシップ推進事業～テーマ型企業理解プログラム～	4	4	兵庫県内企業や大学の特性を生かした複数のプログラムを展開し、学生の地域企業・業界への理解を深め、キャリア意識の向上に貢献できた点は評価できる。今後も、加盟校と賛助会員をはじめとする企業との連携を一層拡充させる取組として発展させていただきたい。	・大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ・参加者数 50名以上/年	参加者数 54名 (2025.10.31現在)	大学・企業関係者による講演・意見交換会 (年1回以上)	大学・企業関係者による意見交換会：1回以上
事業報告③	・第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム	4	4	「全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」において、自治体や地域企業、学生を含む多様な主体と連携しながら企画・運営を遂行した点は高く評価できる。シンポジウムや交流企画では活発な議論と意見交換が行われ、地域連携および大学間協働の可能性を広げる有意義な場となったことが認められる。本取組で得られた知見やネットワークを、今後の事業展開に的確に生かしていくことを期待する。	・大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ・参加者数 50名以上/年	参加者数 461名	大学・企業関係者による講演・意見交換会 (年1回以上)	大学・企業関係者による意見交換会：1回以上
事業報告④	・賛助会員と加盟校の懇親会、企業課題解決プログラム、リスクマネジメント等	4	4	各種委員会やフォーラム等の機会を通じて、加盟校・自治体・産業界との連携を着実に深めている。企業課題解決プログラムにおいても、参画校や企業の広がりを取りつつ、実践的な学びの場の創出に取り組んだことは意義深い。今後も、これらの取組を発展的に活用し、より質の高い連携活動へとつなげていくことを期待したい。また、緊急時におけるリスクマネジメントについても、実効性の高い体制の構築について検討いただきたい。	・緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築 ・参加校・団体数 10校・団体以上/年	参加校・団体数 37校・団体	大学・企業関係者による講演・意見交換会 (年1回以上)	大学・企業関係者による意見交換会：1回以上
事業報告⑤	・加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進	4	4	情報発信の強化や委員会での活発な意見交換を通じて、加盟校が活性化する事業運営体制の整備・推進に着実に寄与した点は評価できる。また、学生アンケート結果を踏まえた広報施策の改善も適切と考える。今後も効果的な周知を進め、運営体制のさらなる充実につなげていくことを期待する。	・加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築 ・アンケートの実施 1回以上/年	アンケートの実施：年1回実施	企画運営委員会等における懇談の実施 (年10回以上)	企画運営委員会等における懇談の実施：年7回実施 (10月31日現在)

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った

対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき

2026 年度キャリア委員会事業①取組 1-1「兵庫県」大学連携組織を活用した
県内大学生の地元就職促進プロジェクトの実施内容の見直しについて

2026 年 2 月 9 日

大学コンソーシアムひょうご神戸 キャリア委員会

委員長 関西学院大学 松本 雄一

今年度 11 月に開催した「グループディスカッション&グループ面接体験セミナー」の実施状況や、現在の学生の就職活動の動向を踏まえ、本プロジェクトの見直しを以下の通り「議論のたたき台」としてご提案いたします。見直し案は開催スケジュールを 2 月頃、対象を就活直前の 2 年生とし、県内就職への意識付けを早期から行うとともに、3 年生からの各大学でのキャリアイベントへの周知を行うことで、キャリア委員会事業として、より学生のキャリア形成に寄り添い、キャリアセンターの皆様の自学での取り組みにおいてもお役に立つ形を検討することを目的としています。ご検討のほど、よろしくお願いたします。

【グループディスカッション（GD）&グループ面接体験セミナーの実施状況について】

① 課題

- ・各大学に多大なご協力をいただいたにもかかわらず、参加者の確保に至らなかった。
- ・土曜日の終日拘束のイベントが学生の参加を退けていた。
- ・開催準備の期間中、参加者の確保に想定以上の時間を要し、事務局として十分な運営準備の時間を確保しづらい状況があった。
- ・当日のキャンセルが多く、グループの編成の変更が多数生じ、スムーズな運営に支障をきたした。
- ・GD 実施企業が少なく、企業側からの学生への具体的なフィードバックが難しい面があった。
- ・GD の内容が難しすぎた。事前にテーマを提示し過ぎない方がいいとの声があった。
- ・参加人数が少なく、出会いたい層の学生との出会いが少なかったという企業からのご意見があった。（賛助会員退会の 1 つの要因になった）

※ 合同模擬（GD・面接）と就活直前講座、参加者数推移

実施年度・月	①合同模擬 GD・面接	②就活直前 講座	傾向
2023 年度 ①1 月②12/2 月	79 名	33 名 3 大学合同	従来スケジュールで一定の集客を維持。
2024 年度 ①1 月②12/2 月	62 名	38 名 4 大学合同	参加人数が減少。 ①の当日キャンセル率は 45%。
2025 年度 ①11 月②12 月	41 名	8 名 6 大学合同	①と②を合わせて前年比で約 5 割減。就活直前講座は、申し込み人数が少なく全 2 回を 1 回に変更した。 ①の当日キャンセル率は 44%。

② 成果

- ・キャリア委員会でのご助言をもとに新設した「地方公務員（一般行政職）コース」は、定員 20 名に対し 22 名の申し込みがあり、最終的に 17 名が参加。この分野の需要があることが確認できた。
- ・参加学生の満足度 90%の学生が参加して良かったと回答。就活直前講座も「とても満足」という回答が 100%であった。
- ・参加企業の満足度 GD は 82%、面接は 91%が「とても良かった」「良かった」と回答があった。また「学

生としっかり向き合うことができる仕組みであり勉強になった」「学生の就職活動のサポートが出来て良かった」という声があった。

③ 考察（上記実施結果と学生の就職活動状況を踏まえて）

- ・学生が指導を希望する時期と開催時期に乖離があり、学生が参加のメリットが少ないと感じたと考えられる。
- ・キャリア選択が多様化し、マスイベントに学生が集まらない現状がある。今後は、大幅なキャンセルを見込むとともに、大人数に頼らずとも成立する事業を立ち上げ必要がある。
- ・土曜終日のイベントは、心理的・物理的にも学生に負担が大きいため、平日の実施や短時間化を検討していきたい。
- ・GD を選考時に採用する企業が減少傾向にあり、支援内容と現状にギャップが生じている。
- ・GD の講師選定やテーマの企画立案の段階から、現場で学生指導されているキャリアセンターの方に加わっていただき、意見を反映し実施していく必要がある。
- ・参加企業側に、コンソが提供できる教育的価値をあらためてご理解いただく必要がある。就活エージェントではなく、あくまで学生の成長支援のためのプログラムであるという意義をしっかりと説明していく。
- ・企業のニーズには「就職活動中の3年生（インターン・早期選考後）との出会い」と「2年生（早期層）への企業認知」の2種類があるため、それぞれに対応したプログラムを実施する意義がある。

【具体的な実施見直し（新たな取り組み）のねらいとプログラム（案）】

以下の内容について、キャリア委員の皆様にご意見をお伺いいたします。まずは、前述の内容から、以下2種類の取り組みを提案いたします。（①）その具体的な実施の見直し案とプログラム案を提案いたします。

① 取り組みの提案（2種）

1：主に3年生対象のプログラム（従来のものを大幅に改訂し、規模を縮小する）

従来の合同模擬GD・面接、地方公務員コース、就活直前講座を組み合わせたものを実施する。

2：主に2年生対象のプログラム（新たな取り組みの提案）

キャリア意識の高い「2年生」を中心に、地元企業とそこで働く若手社員（先輩OB・OG）との交流イベントを実施する。

本提案は、受託元の兵庫県の「低年次からの就職支援」および「先輩社会人との交流機会の提供」という要望にも対応するため、早期から地元企業との接点を持ち、学生が広い視野で将来を考える場を提供することを意図する。

② 具体的な実施見直し（新たな取り組み）のねらい

1. 早期からの地元企業との接点づくりとキャリア選択肢の拡大

キャリアを本格的に考え始める手前の段階で、自己理解を深めるプログラムと絡めながら、地元企業の魅力や「地元で働く意義」を伝える場を設けることを目的とする。

地元の優良企業であっても認知度が低いという課題に対し、早い段階で学生との接点を持つことで、認知度を確実に高めることが可能となる。理想としては、エントリー時に地元企業を選択肢に入れてもらうことだが、まずは学生自身の視野を広げることが重要だと考える。

将来、都心の大企業を選択したとしても、「地元にも良い企業がある」という多様な選択肢を知ることは、学生にとって大きな安心感につながると考えられる。自分の価値観と照らし合わせながら納得して将来を選択できる土台を作ることで、4月から自信を持って就職活動を始められるような支援を目指す。

2. キャリアセンターの早期利用促進

交流イベントを通じ、個々の学生と早期に接点を持ち、学生のキャリアセンター利用への心理的ハードルを下げる。低年次から相談できる「身近な存在」として認識してもらうことで、4月からの本格的な就職活動期において、春のガイダンス等への参加を促し、より積極的な施設利用へと誘導することを目指す。

3. 若手社員との交流を軸とした構成

対象が2年生であることを考慮し、堅苦しい面接形式ではなく、企業の「若手社員」とのカジュアルな交流をメインの構成とする。年齢の近い先輩社会人の生の声に触れることで、学生が自らの将来を具体的にイメージできる場を提供する。

③プログラム案 (1~3)

■開催規模

時期：2027年2月~3月(春季休暇中)	参加学生数：40~60名程度
対象：大学2年生(1年生の参加も歓迎)	参加企業数：10~15社
時間：120分程度	参加大学教職員数：8~10名

■プログラム案1【交流・対話型イベント】

コンセプト：まずは「自分を語る」楽しさを知ってもらう。キャリアセンターを「頼れる相談場所」としてより身近に感じてもらう。

名称：『あなたにこっそり教えます！今からはじめるジブン軸の作り方』

主な内容：

- 「しくじり」ぶっちゃけトーク：キャリアセンター教職員や賛助会員の若手社員(OB・OG)が自らの失敗談を語ることで、学生が「自分の本音を話してもいいのだ」と思える安心感のある場を作る。
- ジブン軸の「タネ」探し：自身の日常のこだわりをキャリアセンター教職員や企業の若手社員(OB・OG)と一緒に深掘りし、自分では気づかなかった強みを「社会で生きる価値観」として前向きな言葉に変換する。
- センター使いこなし術：その場でキャリアセンター予約システムの操作を案内し(チャットボットの紹介等)、相談予約の心理的・物理的な利用ハードルを解消する。

《良い点》

- ✓ 学生が「とりあえず行ってみよう」と思える：失敗談など親しみやすいテーマなので、まだ就職活動を重く捉えていない学生でも、肩の力を抜いて参加できる。
- ✓ その場で「次」に繋がる：予約の仕方を一緒に確認するので、イベントが終わってからも「また相談に行こう」という具体的な行動に繋がりがやすい。

《留意点》

- ！ 話し手の雰囲気によって左右される：教職員や若手社員のトークが盛り上がるかどうかによって頼る部分があり、事前の打ち合わせが必須になる。

■プログラム案2【実践・ワークショップ型イベント】

コンセプト：地元経営者や若手社会人と共に、具体的なアクションプランを作成する。

名称：『2年生からのキャリアスタートダッシュ・ワークショップ』

主な内容：

- オープニング・トーク：地元経営者による Q&A 形式のエール。
- 「働くリアル」交流会：企業の若手社員（OB・OG）とのカジュアルな本音対談。現場のリアルな声に触れ、地元で働く具体的なイメージを膨らませる。
- スタートダッシュ・ワーク：「就活スケジュールの先取り」「センター活用術」をセットで行い、春からの具体的なアクションプランを策定する。
- OB/OG フィードバック：作成したプランに対し、社会人の視点から「2年生の今から始めるメリット」を伝え、実践に向けた背中を後押しする。

《良い点》

- ✓ 地元で働くイメージが湧く：経営者や先輩から直接声をかけてもらうことで、地元企業がぐっと身近になり、安心感を持って将来を考えられる。
- ✓ やるべきことがハッキリする：自分の行動プランをその場で立てるので、春休みからすぐに自信を持って動き出すことができる。

《留意点》

- ！ 経営者への選定や依頼、細かなワークの設計など、キャリアセンター教職員と事務局側で調整することが多くなる。
- ！ 学生への参加特典について。イベント参加者に一次面接免除や特別インターン枠などの「ファスト・パス」のようなものを提示できる可能性がある。

■プログラム案3【興味関心・自己発見型イベント】

コンセプト：「好きなこと」からキャリアを考える。趣味を自己 PR や強みに変える手法を学び、就活へのハードルを最小限にする。

名称：『「趣味」は最強の武器になる！先輩に学ぶ、好きを仕事に活かすコツ』

主な内容：

- 趣味×キャリア・トークライブ：「趣味を仕事に活かしている」企業の OB・OG が登壇。趣味を通じて培った力が、実際の社会でどのように役立っているか、リアルな体験談を聞く。
- 「好き」を強みに変えるワーク：自身の趣味や夢中になっていることから、自己理解に繋がるエピソードを探す。キャリアセンター教職員のサポートを受けながら、自分だけの強みや自己 PR の「種」を形にする。
- キャリアセンター伴走サポート：作成したエピソードをさらに深めたい学生に向け、個別相談の予約方法や、今後のポートフォリオ作成に向けた支援メニューを案内する。

《良い点》

- ✓ 幅広い層に刺さる：「趣味」という入り口なら就活に苦手意識がある学生も興味を持ちやすく、新しい層を集めるきっかけになる。
- ✓ 「自分にも強みがある」と気づく：好きなことを仕事に繋げる考え方を学ぶことで、自分に自信を持って就職活動のスタートダッシュをきるすることができる。

《留意点》

- ！ 現場での手厚いサポートが必要：趣味の話を「自己 PR」まで高めるには、職員が一人ひとりの話を丁寧に聞き、言葉にする手助けをする必要がある。

以上となります。本案につきまして、委員の皆様から忌憚のないご意見・ご助言をお願いいたします。

『就活生向けグループディスカッション&グループ面接 体験セミナー』報告書

主催：兵庫県・大学コンソーシアムひょうご神戸

1. 日時：2025年11月29日（土） 10:00～11:50

2. 場所：兵庫国際交流会館 3階多目的ホール

3. 目的：

本プログラムは、大学コンソーシアムひょうご神戸の加盟校に在籍する2027年卒業見込みの学生を主な対象とし、実践的なグループディスカッション（GD）の場を提供する。加盟校キャリアセンター教職員、および兵庫県内に拠点を持つ企業・自治体の担当者からの多角的なフィードバックを通じて、学生の就職活動に不可欠な自己理解と議論能力の向上を促す。また、企業・自治体担当者に対しては、最新の学生の傾向把握と、GDという選考手法に対する新たな知見や着眼点を提供する場とする。これにより、学生と企業・自治体の双方にとって学びのある相互交流の場を創出することを目的とする。

4. 参加者：計89名（学生、大学教職員、企業、自治体、講師）

1) 学生：21校49名（うち加盟校15校41名）

芦屋大学（2）、関西国際大学（1）、関西福祉大学（1）、関西学院大学（1）、甲南大学（5）、甲南女子大学（2）、神戸大学（1）、神戸海星女子学院大学（1）、神戸学院大学（4）、神戸市外国語大学（10）、神戸女学院大学（1）
神戸親和大学（1）、園田学園大学（1）、兵庫県立大学（3）、流通科学大学（7）、非加盟校（8）

※3回生（45）、4回生（3）、博士課程（1） ※男子学生（17）、女子学生（32）

※留学生10名【中国（2）、台湾（1）、インドネシア（2）、ベトナム（4）、ミャンマー（1）】

2) 大学教職員：12校12名

大学数	大学名	部署	役職	氏名
1	芦屋大学	学生部 就職課		吉田 育子
2	大手前大学	キャリアサポート室	室長	久保 和也
3	関西国際大学	キャリア支援課	主幹	川越 友靖
4	関西福祉大学	キャリア開発課		笠原 駿介
5	関西学院大学	キャリアセンター		山口 理一
6	甲南女子大学	キャリアセンター		和田 裕貴
7	神戸大学	キャリアセンター	特命政策研究職員	田中 美恵
8	神戸学院大学	キャリア支援グループ		井口 未貴
9	神戸国際大学	キャリアセンター		河合 めぐみ
10	神戸松蔭大学	キャリア支援課	課長	藤部 千栄子
11	神戸親和大学	キャリアセンター事務室	主任	實安 恭子
12	兵庫県立大学	神戸商科キャンパス・キャリアセンター		向井 節郎

3) 企業 : 15 社 22 名

	企業数	企業名	部署	役職	氏名
1	1	ALSOK株式会社	採用部 西日本採用センター	主任	福島 梨世
2					金谷 まい
3	2	神戸トヨペット株式会社	技術グループ サービス採用	次長	中島 秀和
4	3	株式会社シマブンコーポレーション	人事労働部 人事部		粟井 萌絵
5	4	株式会社ソネック	経営管理部	顧問	坂本 昇一郎
6			営業部		梅崎 まり奈
7	5	T O A 株式会社	人事部	人事部長	佐藤 健二
8					辻 依里
9			海外事業推進室		冢次 あかね
10					上山 紀子
11	6	株式会社東京商工リサーチ	関西支社総務部	部長	摺出寺 理恵子
12			神戸支店	支店長	改發 厚
13	7	白鶴酒造株式会社	総務人事部	課長	吉田 一真
14	8	株式会社パソナグループ	HR本部 グループ採用部		御手洗 友香
15	9	兵庫ダイハツ販売株式会社	人事部	部長	山田 和弘
16			人事部 人材開発室 リクルート課	課長	長濱 優
17	10	古野電気株式会社	人事総務部 人材開発課	課長	橋爪 雄一
18	11	株式会社ブレックス	取締役	取締役社長	大久保 武
19	12	株式会社ベオスアイティーホールディングス	大阪支店 採用営業課		石井 勇治
20	13	株式会社マルヤナギ小倉屋	総務人事部	主任	北澤 愛
21	14	株式会社みなと銀行	人財サービス部	マネージャー	石井 佑樹
22	15	株式会社ロック・フィールド	人事部 人事グループ		長光 智哉

4) 自治体 : 3 団体 5 名

	団体数	自治体名	部署	役職	氏名
1	1	明石市	総務局 職員局 職員室		谷口 直也
2	2	兵庫県	総務部 教育課 大学振興班	副主任	村田 由佳里
3			総務部 教育課		笹倉 真基
4	3	姫路市	総務局 職員部 人事課	係長	小西 智久
5					小野 崇

5) 講師 : 1 名

大阪工業大学工学部生命工学科客員教授 人事コンサルタント・キャリア教育プランナー 松本 治氏

※事務局 : 大学コンソーシアムひょうご神戸 (11)

【グループディスカッション体験セミナー】

5. 内容 :

「住み続けたい街にするにはどうすればよいか？」をテーマに GD を実施した。各グループで条件 A (人口 10 万人未満の市町) または条件 B (神戸から電車で 1 時間以内のベッドタウン) を選択し、現実的な課題解決策を検討した。

条件 B を選択したあるグループは「大学 3 年生向けの政策」に焦点を当て「魅力的な仕事の創出」と「住環境の改善」を課題として特定し、解決策として企業誘致のための助成金や起業教育の実施、さらには 10 年以上居住者への在宅支援などを提案した。

学生からは、「とても貴重な経験ができた」「GD の流れを実感できた」といった実践の場を得られたことへの高い評価に加え、「大変だったが達成感があった」「チームで協力するために必要なことは何か実践してみて初めてわかることも多くあった」という具体的な学びの感想が寄せられた。一方で、「自由度の高いテーマであったが故に、議論の方向性を定めることが難しかった」という声や、「ほぼ初めての経験で、ならではの難しさを知ることができた」という感想も見られ、本プログラムが深い自己成長に繋がったことが伺える。



GD 終了後、企業・自治体・大学から気づきや改善点などのフィードバックを受け、学生は「自分一人では気づかない客観的な自己理解（弱点や長所）と具体的な改善点」を明確にでき、特に「役割別のアピール方法」や「自身の目線、表情、笑顔が相手に与える印象」といった、行動に直結する具体的な指針を得ることができた。

講師の松本氏は、議論の前提設定の不足や意見の羅列に終わる傾向を「幕の内弁当」に例えて指摘し、「焼き肉弁当」（明確な方向性を持つ議論）の必要性を強調した。さらに、生活者目線の欠如、持続可能性やコスト負担への考慮不足といった、企業・自治体の視点に立った重要な視点を具体的に教示し、学生の思考レベルを深める助けとなった。

企業・自治体からは、「議論における学生の立ち回りや進め方に個性が垣間見えた」、「昨今の大学生の傾向を知る良い機会となった」といった意見が寄せられた。一方で、「学生が議論のゴールを見失い、「議論が重たい」「弾まない」状況が見受けられた」、「議題のレベルが学生にとって高すぎたため、もう少し簡単なテーマを設定するか、実施中にヒントを与えるなどのサポートがあっても良かったのではないか」という提言があった。



以上

【グループ面接体験セミナー】

1. 日時：2025年11月29日（土）12:35～14:30
2. 場所：兵庫国際交流会館3階多目的ホール、2階研修室1～3
3. 参加者：計78名（学生、大学教職員、企業、自治体、講師）

学生：20校38名（うち加盟校14校30名）

大手前大学（1）、関西国際大学（1）、関西福祉大学（1）、関西学院大学（1）、甲南大学（5）、甲南女子大学（1）、神戸大学（1）、神戸学院大学（4）、神戸市外国語大学（7）、神戸女学院大学（1）、神戸親和大学（1）、園田学園大学（1）、兵庫県立大学（2）、流通科学大学（3）、非加盟校（8）

※3回生（34）、4回生（3）、博士課程（1）※男子学生（12）、女子学生（26）

※留学生7名【中国（2）、台湾（1）、ベトナム（4）】

4. 内容：グループ面接（2回）

学生：3～4名、面接官（企業・自治体・大学教職員）：2～3名

グループ面接（一般企業コース）



今回のグループ面接は、2部構成で実施した。まず形式に慣れるための練習回（20分）、そしてより緊張感のある「本番」を想定した時間設定の本番想定回（25分）。参加した学生たちは、最初は緊張した面持ちだったが、時間とともに真剣さが増し、どのグループも集中して取り組む姿が見られた。

グループ面接（地方公務員コース）



今年度は、企業に加え、明石市、姫路市、兵庫県と3つの自治体が参加した。公務員志望の学生にとっては、本番さながらの面接を体験できる大変貴重な機会となった。

面接後には、面接官から、学生一人ひとりに対して親身になったフィードバックがあった。うまくいかなかった点や、さらに良くなるための具体的なアドバイスを丁寧に伝える中で、学生を励まし、モチベーションを高める場面がたくさん見られた。

参加した学生からは、「本番さながらの緊張感が味わえ、自分の課題が明確になった」「フィードバックがとても具体的で、すぐに次の選考に活かせる内容だった。大変参考になった」といった、嬉しい声が寄せられた。また、学生からは「どうしたら採用される面接ができるか」という質問があり、企業からは「会社の理念などをしっかり理解しているか」や「自分が面接官だったら、採用したい人はどんな人かを考えてみてはどうか」など具体的なアドバイスがあった。どの企業もコミュニケーションを大事にしている、学生には面接用ではなく面接官と普通に話すことが大事という話があった。

面接官として参加した企業や自治体、大学の皆様の協力により、学生たちは現実の採用過程に近い体験を得ることができ、非常に有意義な時間となった。

以上

【学生と企業・自治体との交流会】

1. 日時：2025年11月29日（土）14:40～15:35
2. 場所：兵庫国際交流会館3階多目的ホール、1階ナダコムステーション
3. 参加者：計78名（学生、大学教職員、企業、見学、兵庫県、講師）

2) 学生：20校38名（うち加盟校14校30名）

大手前大学（1）、関西国際大学（1）、関西福祉大学（1）、関西学院大学（1）、甲南大学（5）、甲南女子大学（1）、神戸大学（1）、神戸学院大学（4）、神戸市外国語大学（7）、神戸女学院大学（1）、神戸親和大学（1）、園田学園大学（1）、兵庫県立大学（2）、流通科学大学（3）、非加盟校（8）

※3回生（34）、4回生（3）、博士課程（1） ※男子学生（12）、女子学生（26）

※留学生7名【中国（2）、台湾（1）、ベトナム（4）】

4. 内容：学生が興味のある企業・自治体のブースを訪れ直接担当者と交流した。1回15分で計3ターム実施し、第1タームは指定されたブースを訪問、第2・3タームは学生が自由に選択したブースを訪問する形式とした。

各企業はPCでプレゼンテーション資料を提示したり、自身の入社当初の経験等話をしたり幅広いテーマでざっくばらんな交流を行った。訪問するブースに迷う学生も見受けられたが、コンソーシアムのスタッフが相談に乗り誘導することで、これまでに知見のなかった企業の魅力を発見する機会にもつながった。

参加企業・自治体からは「学生との早期接触や意見交換、密な接点を持つ機会が得られた点に高い満足感が示された。特に、学生の生の声や就活の悩みを聞き、就活アドバイスを通じて貢献できたことが有意義であった」との声が得られた。



以上

【企業・自治体・大学との交流会】

1. 日時：2025年11月29日（土）16:05～17:00
2. 場所：兵庫国際交流会館1階ナダコムステーション
3. 参加者：計40名（大学教職員、企業、自治体、講師）
 - 1) 大学教職員：12校12名
 - 2) 企業：15社22名
 - 3) 自治体：3団体5名
 - 4) 講師：1名 ※事務局：大学コンソーシアムひょうご神戸（11）
4. 内容

議論は大きく分けて「グループディスカッション&グループ面接の振り返り」および「企業、自治体、大学教職員による学生就職状況の共有」の2つのテーマを中心に進められた。

(1) グループディスカッション (GD) & グループ面接の振り返り

GDについては、比較的優秀な学生が参加する傾向はあるものの、運用・評価の難度が高く、実施に積極的な企業は少数に留まっている。GDでの選考方法に可能性を見出した自治体もあったが、一方で、企業からは、グループの雰囲気は悪くないものの、顔色を伺う学生が多く、意見を活発に発言できているようには見えなかったという意見があった。

グループ面接においては、「社会に貢献したい」といった定型的な回答が多く、学生の本心や真偽を見極めることが面接官の重要な課題として共有された。学生の面接対策はAI等を利用して高度化・均質化しており、企業からは、表面的な受け答えや虚偽を見抜くための評価スキルが一層求められているという意見が共有された。

また、就職エージェントの利用については、就職活動に不慣れな優秀な学生層には有効である一方で、面接フィードバック目的での「練習利用」も存在し、良質なエージェントとそうでないエージェントの質の見極めが大学・企業双方にとっての課題となっている。

(2) 企業、自治体、大学教職員による学生就職状況の共有

ここでは、主に採用の早期化と学生の行動変容について話し合いがもたれた。採用の早期化は一層進展しており、既に内々定を出している企業も存在する状況が共有された。これに伴い、内定者フォローの重要性が高まっているが、全体最適の打ち手は見出しにくいとの認識も示された。

学生側の行動変容として、大学キャリアセンターへの来訪学生が減少し、学生がSNS（例：X）や検索を通じて独自に情報収集を行う傾向が強まっている。このため、SNS等に投稿されたネガティブ情報が学生の意思決定に影響を与え、企業の公式イメージと面接現場のギャップが内定辞退の誘因となるケースも指摘された。

さらに、現在の学生には「まず就職して合わなければ辞める」という進路選択に対する比較的軽量な意思決定傾向が広がっており、「進路選択の意義」をいかに伝えられるかが、大学・企業・自治体共通の課題となっている。

以上

2026 年度キャリア委員会事業④取組 1-1①留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの
『ひょうご留学生インターンシップ』運営方法について

2月9日

大学コンソーシアムひょうご神戸

キャリア委員会

委員長 関西学院大学 松本 雄一

I. 2025 年度の実施状況について

- ・予想を上回る申し込みがあり、留学生・企業に対して丁寧なフォローアップを維持することが、運営上、困難な時があった。
- ・大学のキャリアセンターを通さずに、個別申込としたため（2023 年度より）留学生の参加状況を大学側で把握することが難しく、留学生のフォローや指導との連動が難しい時があった。

上記の状況を鑑みて、留学生にとってより実りあるインターンシップとするため、本年度は以下の様な運営方法で実施したく、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

II. 実施規模等の見直し

	変更前（2025 年度）	変更後（2026 年度）
受入企業数	28 社	22 社～25 社
参加学生数	85 名	40 名～50 名
日本語能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ N1 または N2 相当の日本語能力を有するもの ・ 英語話者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ N1 または N2 取得者限定 ・ 上記資格未取得者は、各大学の担当教職員が、実習に支障ないレベル（N2 相当）と判断する場合に限り受け付ける。 ・ 英語のみの学生は対象外とする。 （必要に応じて、外国人留学生採用ワンストップ相談窓口で個別対応する）
申込	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別申込 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学を通じた一括申込 窓口を大学キャリアセンターにすることで、留学生の動向や属性の把握が可能に。 ・ 事務局指定の共有ドライブへデータ（PDF 形式）をアップロードする形式へ統一する。
履歴書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局指定の履歴書に入力（入力不備多数） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各大学で使い慣れた独自の履歴書フォーマットをそのまま利用可能とする。
研修	外部講師	加盟校のキャリア支援担当教職員へ依頼

III. 年間スケジュール（4月～9月）

基本的に2025年度同様。⑤のみ、加盟校の意向を確認しつつ、実施形態を検討する。

時期	項目	形式	学生
4月	①オンライン説明会	オンライン	プログラムの概要を知る
5月	②募集・プログラム申込	オンライン	各大学担当窓口履歴書を提出
6月上旬	③事前研修1	対面	働く意義、インターン・交流会参加に向けて必要なことを学ぶ
6月中旬～ 7月上旬	④交流会・選考会	対面	企業と直接話し、実習先を決める
7月	⑤事前研修2	ハイブリッド	マナー練習と他校の学生と目標共有
7月～8月	⑥企業事前訪問	対面	大学教職員/事務局と企業を訪問
8月～9月	⑦インターンシップ実施	実習先	5～10日間（スプレッドシート日報を記入）
9月下旬	⑧報告会・修了式	対面	経験を振り返り、次のステップへの準備をする

※参考：申込者・修了者数推移

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
申込者数	48名	72名	107名	148名
修了学生数	43名	38名	61名	85名
参加大学数	8校	12校	10校	13校
受入企業・団体数	22社	21社	26社	28社

※2022年度は推薦制度あり